

## 海上自衛隊第2術科学校オープンスクール

神奈川地本カレッジ防衛モニター 阪西 貴広

9月10日(土)、海上自衛隊の第2術科学校を研修した。術科学校は、海上自衛隊が自衛隊員に対して、専門知識や技術に関する術科教育を担任する学校である。第2術科学校は横須賀市に所在し、艦艇のエンジンや情報、外国語等の教育を行なっている。

海上自衛隊では、主に戦闘艦にはガスタービンエンジン、補助艦にはディーゼルエンジンを使用しており、ガスタービンは高速巡航を得意とするが燃費が悪く、ディーゼルはその逆であるそうだ。展示コーナーには、掃海艦に使用するディーゼルエンジンがあった。そのエンジンは、機雷を排除するという任務の特性上、磁気に反応しない非磁性材料で作られているそうだ。また、海上でにおいて船体にトラブルが発生した際には、修理するために艦内で金属の塊から部品を精製することがあるとの説明には驚いた。

今回は、海上自衛隊の教育機関を見学するという貴重な体験ができた。

## 「金沢まつりいきいきフェスタ」にて広報活動

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所(所長 平原一陸尉)は、10月15日(土)、海の公園(横浜市金沢区)で行われた区主催の「金沢まつりいきいきフェスタ」において、広報活動を実施した。

当日は秋晴れの空のもと、小学生のダンスチームやフラダンスサークルによる華やかなステージ、また約90店に及ぶ出展ブースには長蛇の列ができるなど、大いに賑わいを見せた。

自衛隊ブースにおいては、「南極の石」をはじめ、砕氷艦「しらせ」による南極地域観測協力のパネル展示が来場者の目を引くとともに、子供向けの「南極」に関するクイズ形式のイベントが興味を集めた。また、迷彩服を試着しての展示車両前での記念撮影や神奈川地本キャラクター「はまちゃん」の登場を毎年楽しみにしている女性客の姿もあった。上大岡募集案内所は、「今後も、地域住民との信頼関係の構築に努めていきたい」としている。

## 「きくどらまつり」で自衛隊をPR

神奈川地方協力本部横浜出張所(所長 服部3陸佐)は、10月16日(日)、横浜市港北区にある菊名ドライビングスクールが主催した「きくどらまつり2016」において、車両(1/2トラック)展示及び自衛隊ブースを設置し、広報活動を実施した。

自衛隊ブースには、多くの家族連れが訪れ、ちびっこ迷彩服を試着した子供たちが1/2トラックに乗車する姿を写真に収める保護者が多く見られた。また、海上自衛官の広報官によるサイドパイプの実技指導には、多くの子供たちが参加し、サイドパイプの握り方やコツを教わり、うまく鳴らせるようになった子供たちが自信満々に音を響かせていた。

横浜出張所は、「今後も、地域に密着した様々な広報活動の場を通じて自衛隊の活動を発信し、防衛基盤の育成に努めたい」としている。



海上自衛官、かっこいい!